



中野 昇先生の御逝去を悼む ア一エニ鼠陪

学校教育学部 岡田 禎 雄

広島大学名誉教授中野 昇先生が、昨年12月4日、腎不全のために逝去されました。享年76歳でした。

先生は大正3年香川県でお生まれになり、広島高等師範学校、広島文理科大学で数学を御専攻になり、広島高等師範学校教授、広島大学理学部助教授、同教育学部教授を歴任され、昭和53年停年で退職されました。

この間、教育学部東雲分校主事を3期5年の長きにわたってお務めになり、学校教育学部の創設のために御尽力下さいました。昭和53年6月にその願いが実現しましたことは、ひとえに中野先生の御努力によるものです。

先生は昭和31年に教育学部教授に御就任されるまでは、代数学の研究に打ち込まれ、輝かしい業績をあげられました。教育学部に移られてからは、もっぱら算数・数学教育の研究に取り組み、多数の著書、論文を通して、また教育課程審議会の委員として、わが国の算数・数学教育の進むべき道を示してこられました。

広島大学御退官後は、安田女子短大教授、福山市立女子短大を歴任され、女子教育の発展にも大きく貢献してこられました。

このような先生の御功績とお人柄をしのびながら、76歳というまだ早すぎる御逝去を悼み、哀心より御冥福をお祈りします。



成相秀一先生を偲ぶ

京都大学基礎物理学研究所 藤川 和 男

1990年12月5日名誉教授成相秀一先生は、腎不全のため66歳で亡くなられた。

先生は、1943年松江高等学校理科を卒業、1947年には東北帝国大学理学部物理学科を卒業し、同大学副手を経て、1953年12月広島大学理論物理学研究所助手に就任、以後、講師、助教授を経て1973年より1987年の退官まで教授を勤められた。その間、2期4年にわたり理論物理学研究所長と評議員を、また1975年から2年間日本天文学会副理事長をも勤められた。

成相先生は、宇宙論及び一般相対論の研究で100編におよぶ欧文原著論文を發表し、日本のみならず世界の宇宙論研究の先駆的役割

を果たされた。先生の主たる業績は大別して次の5つに分類される。すなわち、非等方宇宙モデル（アインシュタイン方程式の成相解の発見）、膨張宇宙における宇宙乱流理論、重力不安定性による銀河形成理論、膨張宇宙における粒子生成、及び星の重力崩壊の一般相対論的研究の5つである。これらの業績に対して1986年中国文化賞が贈られた。

先生は、竹原という一地方都市にあって、広大のみならず京大、東大、名古屋大等の若手研究者に多大の影響と励ましを与えつづけられた。成相先生と理論研の名は、多くの研究者の心の中に、いつまでも生きつづけるものと思われる。